

大府医発第256号  
(総務)(Fax)  
令和4年6月24日

都市区等医師会長 殿

大阪府医師会長  
茂松茂人  
(公印省略)

### 第322回大阪府医師会定例代議員会の決定事項について

6月23日(木)に開催いたしました第322回本会定例代議員会において、下記事項が決定されましたのでご通知申し上げます。

記

#### ▽ 議 事

次の各議案はすべて執行部原案どおり可決決定した。

第1号議案 令和3年度大阪府医師会決算の件

第2号議案 令和5年度大阪府医師会会費賦課徴収の件

第3号議案 令和5年度大阪府医師会新入会員に対する会館設備資金応益負担金の賦課徴収の件

#### ▽ 協 議

##### (1) 当面の医療問題について

執行部から、政府・各党に国民皆保険制度の更なる充実を強く要求したいとして決議の提案があり、これを了承、採択した。(別紙参照)

## 決議

新型コロナウイルスの感染拡大から三年が経過したが、感染の流行を繰り返している。第6波の感染者数は全国で1日10万人を超える、大阪では2月に15万人以上の新型コロナウイルス感染症患者に公費で診療を行った。

ワクチン接種率の向上により、重症者数は減少しているものの、高齢者施設におけるクラスター対策は十分とは言えない。感染症に対応できる地域の中核病院と診療所の連携、往診体制への支援、強化が必要である。

保健所の負担を軽減するために自宅療養、健康観察を医療機関が担うことは、本来2類相当の感染症対策としてあるべき姿ではない。これまで保健所の統廃合により、保健所機能を縮小させた政策は改めるべきである。

令和4年度診療報酬改定において、中医協において十分議論することなく、診療を伴わずに処方が可能となるリフィル処方が導入された。療養管理上、問題が生じかねず、早急に廃止すべきである。

また、初診からのオンライン診療が解禁されたが、医療は利便性を優先すべきではなく、医療の質と安全性を確保するため規制の強化が必要である。

国民の命と健康を守るためにには、国民が広く医療にアクセスできる体制を堅持し、有事と平時の医療体制を両立できる地域医療を構築する必要がある。医薬品の安定供給は国の責務であり、供給体制を確保し、国内製薬企業による新興感染症に対する創薬、ワクチン開発の支援を強化すべきである。

社会保障を充実させるため、財源を確保し、全ての国民が安心して安全かつ質の高い医療を受けられるよう下記事項を要望する。

世界においては、軍事力を背景としたロシアのウクライナへの侵攻により、一般市民を戦禍に巻き込み、尊い命が失われている。国際秩序を遵守しない領土拡大は断じて許されない。

### 記

- 一、高齢者施設におけるクラスター対策の強化
- 一、感染症に対する保健所機能を発揮できる体制の整備
- 一、療養管理上、問題が生じかねないリフィル処方の廃止
- 一、利便性を優先した初診からのオンライン診療の規制強化
- 一、医薬品の安定供給の確保と国内製薬企業による創薬、ワクチン開発の支援・強化
- 一、国民皆保険制度を守るための社会保障費の財源の確保

令和4年6月23日

一般社団法人大阪府医師会  
第322回(定例)代議員会